

寄稿

「いつまでも皆が笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと・小田原」へ 歩みは止まらない

前小田原市長 加藤憲一

5月23日の市長任期満了から、はや2カ月が経過しました。3期12年間ご支援・ご協力頂いた多くの皆さんからの期待に報いるべく、次の実践への準備を進める日々です。改めて市長時代を振り返ると共に、現在の状況とこれらについて報告させていただきます。

12年の振り返りと感謝

市民・職員の間で、歩んできた3期12年。人口減少・少子高齢化・地域経済低迷・公共インフラ老朽化・財政難などの社会状況が年々深刻化する中、ハード・ソフトを問わず様々な地域課題の解決に取り組むついで、「持続可能な地域社会」の創造を目指して全力を尽くしてきました。

苦労や困難は数知れずありましたが、皆さんに「理解とご支援を頂き、共に汗を流して頂いたこと」で、「新しい小田原」への歩みは着実に、そして大きく進みました。自然環境を大切に、市民のいのちを守り育て、身近な地域コミュニティの絆を育み、地域資源を活



かとうけんいち：2008年5月より3期12年間、小田原市長。市民力・地域力による「持続可能な地域社会」づくりに尽力。

おだわらを拓く力
 拓く力 検索 powers@mbn.nifty.com
 「おだわらを拓く力」(加藤けんいち後援会)は、新たな実践活動へと発展的に解散します。
 加藤憲一が進める活動の様子は、当面フェイスブックにて随時発信していきます。こちらのQRコードもしくは

守屋市政がスタートして、市民の信頼関係をますます築くことが、この局面を乗り越える唯一の道。守屋市長には、誠実に市民の皆さんの声に向き合って頂きたいと思います。懸念されるのは、様々な問題が指摘されている「政策」設置が議会で承認されるなど、チェック機能を果たすべき市議会の市長と党化が顕著であり、

「いのちを守り育てる地域自給圏」へ

時代と社会への問題意識
 子どもの頃から野山で遊び、仕事や暮らしの中で森里川海の恵みを受け、家族の病を通じて「いのち」と向き合い、地域課題の現場で市民の皆さんと関わり育んできた経験から、人にとっての真のゆたかさや幸せを確かなものにする「礎」とは、健やかな「いのちと暮らし」を支える要素

ことだと、市長経験を通じて確信しています。清浄な水や空気を生む森、身近な自然、安全で新鮮な食材、自然由来のエネルギー、助け合う身

近な人々の絆、暮らしに不可欠な家づくりやものづくりの技、支え合うケアの仕組みや文化、子どもたちの健やかに育てるための、自然と人の共生、確かな絆、地域自給の営みなどを厚く育てて行くことの重要性が、

はつきりと見えてきました。国の内外において政治も財政も先行きが不透明な中からこそ、足元の地域で確かな未来への歩みを刻まねばならぬ。その実践が今まさに問われています。

新たな実践へ、共に
 そうした問題意識に立ち、私は改めて「大地」に足を着け、「いのち」を守り育てる地域自給圏を自指して、様々な人々と実践の絆を紡いでいきたいと考えています。

「小田原市」という行政境も越え、酒匂川という水系で育まれた地勢的・歴史的にもまた限りある県西地域をフィールドに、環境再生・森づくり・農の現場をベースとしながら、この地域で共に生きていくことにな



大勢の市民に迎えられた退任式



さつそく農の現場で活動開始

人たちが、出会い、交流し、共に汗を流し、楽しいことも苦しいことも分かち合っている地域の姿を目指したい。すでに多くの人たちが素晴らしい実践をされており、それが広域・多分野で繋がっていくことにより、この地域圏はまさにアフターコロナを生き抜く地域の範を示すことができると、私は確信しています。イメージは宮崎駿作品の中で描かれた「風の谷」です。

まずは、荒れつつある森・田畑の再生や学びの場づくりに、色々な人たちと手を携え取り組んでいくつもりです。これまでにお支援頂いた皆さんには、そうした活動も含む様々な現場で一緒に働く機会が増えると思っております。ご気軽に声をかけてください。そして、共に小田原の未来を拓いていきましょう。長い間お支え頂き、ありがとうございました。そして、これからもよろしくお願ひ致します。